



遙かな町へ

倉吉まち歩きマップ



漫画家谷口ジローが描いた風景が導く散策ガイド

倉吉を舞台に描かれた『遙かな町へ』

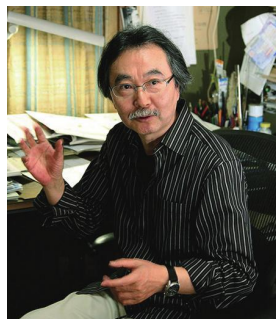
「48歳の私が、14歳の私に入れ替わる……そんな事が本当にありえるのだろうか……!？」出張で京都を訪れた主人公は、列車を乗り間違え、故郷である鳥取県倉吉市に向かう列車に乗っていた。数年ぶりに下り立った故郷の町。何かに導かれるように母の眠る菩提寺へとたどり着き、墓前で気を失う。目が覚めると、そこは34年前の倉吉。「これが現実ならもう一度14歳を生きよう」と決意するが、過去の記憶とは、微妙に違う出来事が起ころしはじめる。



(小学館刊)

鳥取県倉吉市を舞台に、中学生に戻った48歳のサラリーマンが繰り広げる青春ドラマ。1999年文化庁メディア芸術祭マンガ部門最優秀賞を受賞。2003年アンダグレイム国際マンガ祭で最優秀脚本賞を受賞。2009年名匠サム・ガルバルスキー監督により映画化。

世界が認めた漫画家 谷口ジロー



1947年～2017年。18歳まで鳥取で過ごす。ハードボイルドやSFなどの迫力ある画像から、市民の日常をていねいに描く描写、そして江戸時代から明治の都市生活まで、幅広い表現で知られる。日本、ヨーロッパ、アジアで多くの漫画賞を受賞。2011年にはフランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」を受章した。谷口ジローの作品は、現在世界15カ国で翻訳・出版されている。

発行／鳥取県中部総合事務所地域振興局

〒682-0802 鳥取県倉吉市東蔵城町2 TEL：0858-22-8141／FAX：0858-23-3425

玉川治い たまがわぞい

まちの中心を流れる玉川に沿って白壁土蔵が建ち並ぶ

醤油屋の土蔵をショッピングの空間へ

★赤瓦一号館

大正時代の醤油のもろみ蔵をリノベーションした建物には、倉吉の特産品、地酒をはじめ、竹細工や手作りアクセサリーの販売店などこだわりのショップが並ぶ。天井の梁と束柱を格子状に組み合わせた五重構造の小屋組は見たえがある。



昭和23年創業

一枚焼きの鯛焼き

★米澤たいやき店

倉吉のソウルフードとして地元で長く愛されているたいやき店。金型で一匹一匹焼く昔ながらのたいやきは、尻尾までたっぷり入ったほど良い甘さのあんこと、パリッとした白い衣が人気。



打吹山や赤い瓦のまち並みをぐるり展望

★打吹回廊

2019年7月20日にオープンした倉吉銀座商店街沿いの複合施設。展望台は地上15メートルにあり、打吹山や赤い瓦のまち並みを360°見渡せる。



明倫地区 めいりんちく

八橋往来に沿って栄えた街道の風景が残る

倉吉市に現存する最古の町家建物

★倉吉淀屋 市指定有形文化財

「淀屋」の屋号をもつ牧田家は倉吉を代表する商家で、淀屋橋で有名な大阪の豪商「淀屋」と密接な関係を持っていたといわれている。主屋は1760(宝暦10)年、付属屋は1838(天保9)年の建築。



日本の造形文化・クールジャパンの聖地

★円形劇場 くらよしフィギュアミュージアム

国内に現存する最古の円形校舎をリノベーションしたフィギュア博物館。日本を代表するフィギュアメーカーの作品を約2千点展示。建物は「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選定された。



明治開業

現存する県内最古の銭湯

★大社湯

住宅風の外観が周囲の景観と調和し、明治後期における公衆浴場の形態を今に残す貴重な建造物であることから、2010年に浴場及び主屋が国登録有形文化財に登録された。



魚町界限 うおまちかいわい

中世は城下町、近世は陣屋町として栄えた町家の風情

明治10年創業

オリジナル醤油スイーツも魅力

★桑田醤油醸造場 県指定保護文化財

老舗醤油屋は大工を京都に修行させて建てた京風町家。昔ながらの製法で、手間ひまかけて仕込まれた醤油が店内に並んでいる。オリジナルの「しょうゆアイスクリーム」など醤油を使ったスイーツも食べ歩きにおすすめ。



「はーこさん」の愛称で受け継がれる民芸品

★はこた人形工房

天明年間から倉吉に伝わる張り子の人形で、怪我や病気をしないで無事に育ってほしいという願いがこめられたお守りでもある。工房では手作業の製作過程を見学できるほか、顔描き体験(有料・要予約)も可能。



琴櫻の入門から逝去までの軌跡

★琴櫻記念館

倉吉出身の第53代横綱琴櫻(前佐渡ヶ嶽親方)の写真パネルや貴重な化粧まわし、入門から逝去までの軌跡をまとめた佐渡ヶ嶽部屋オリジナルDVDや天皇賜杯(レプリカ)など琴櫻関ゆかりの品々を展示する。



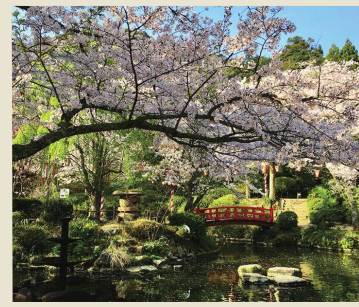
打吹公園 うつぶきこうえん

打吹城が築かれた城山は天女伝説の残る桜の名所

桜の名所として親しまれている

★打吹公園

大正天皇が皇太子の時、山陰行啓の際、1904(明治37)年に造園。その後も手が加えられ、サクラとツツジの開花期には多くの観光客でにぎわう。皇太子宿泊所の飛龍閣は、2011年に国登録有形文化財に登録された。



白壁土蔵をイメージした建物は建築業協会賞受賞

★倉吉博物館

倉吉市ゆかりの前田寛治や菅橋彦、人間国宝・大坂弘道などの美術作品をはじめ、重要文化財を含む考古資料、「千歯掘き」「太一車」などの農機具や倉吉餅などの民俗資料、自然部門を収蔵する総合博物館。



国登録有形文化財に

登録されている庁舎建築

★倉吉市役所本庁舎

設計は丹下健三氏と岸田日出刀氏。水平線を強調した外観は丹下健三の初期庁舎建築の特徴をよく示している。日本建築学会賞を受賞し、「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選定された。



倉吉から足をのびして作品の舞台を訪ねる

ふるさと鳥取県にあたたかいまなざしを向けていた谷口ジローは、倉吉以外にも、鳥取県内や山陰を舞台に多くの作品を描いた。



(扶桑社刊)

『孤独のグルメ2』

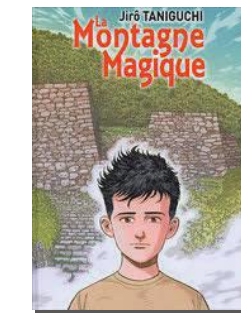
第6話で主人公・井之頭五郎が鳥取市を訪れ、鳥取砂丘と鳥取市役所食堂が舞台となる。



(小学館刊)

『父の暦』

父との間にわだかまりを抱える主人公が父の葬儀のために16年振りに故郷鳥取を訪れる。



(カステルマン社刊)

『魔法の山』

鳥取城跡、久松山など鳥取を舞台にしたファンタジー作品。『いざなうもの』(小学館)所収。



鳥取砂丘

1994年『父の暦』、2012年『孤独のグルメ』で、描かれた鳥取砂丘。砂像を展示する観光スポット「砂の美術館」にも立ち寄りたい。



素ラーメン

『孤独のグルメ』の主人公・井之頭五郎が食べたのは、鳥取のご当地麺「素ラーメン」。昭和30年代に鳥取県東部に広まったご当地グルメで、中華麺をうどん出汁で食べるもの。

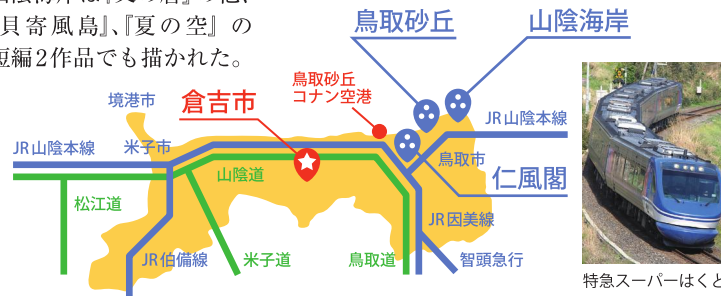
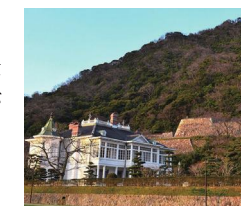


山陰海岸

山陰海岸は『父の暦』の他、『貝寄風鳥』、『夏の空』の短編2作品でも描かれた。

仁風閣

『魔法の山』の舞台は架空の街だが仁風閣や久松山など鳥取の名所がそのまま登場する。



特急スーパーはくと

倉吉へのアクセス 公共交通機関を利用する場合

- 飛行機をご利用の場合
東京→倉吉(約2時間) 羽田空港～鳥取砂丘コナン空港～空港連絡バス
- 鉄道をご利用の場合
京都→倉吉駅(約3時間30分) 特急スーパーはくと
岡山→倉吉駅(約2時間40分) 特急スーパーいなば→とっとりライナー
博多→倉吉駅(約4時間30分) 新幹線→特急スーパーはくと
- 高速バスをご利用の場合
東京→倉吉(約11時間40分) 大阪→倉吉(約3時間35分) 福岡→倉吉(約9時間30分)
岡山→倉吉(約2時間30分) 広島→倉吉(約4時間)

マイカーを利用する場合

名古屋・大阪方面から：中国道→佐用JCT→鳥取道→山陰道→はわいIC→R179→倉吉
広島方面から：中国道→三次東IC→松江道→宍道JCT→山陰道→R9→R313→倉吉

近隣の駐車場



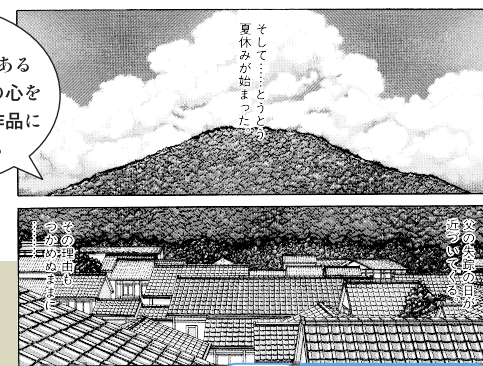
問い合わせ先／倉吉白壁土蔵群観光案内所
〒682-0821 鳥取県倉吉市魚町2568-1 赤瓦十号館内
TEL：0858-22-1200／FAX：0858-24-5015

レンタサイクル、コインロッカー、音声観光ガイド端末貸出あり



第1章、不安な主人公の気持ちを伝える印象的なカット

倉吉市民の心の寄りどころである打吹山は、主人公の心を写す風景として、作品に何度も登場する



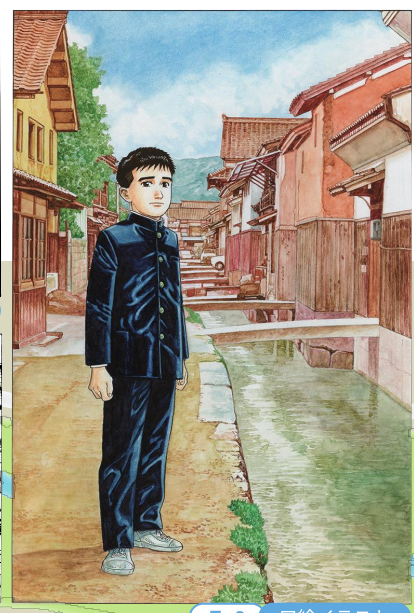
T-7 第13章・300ページ



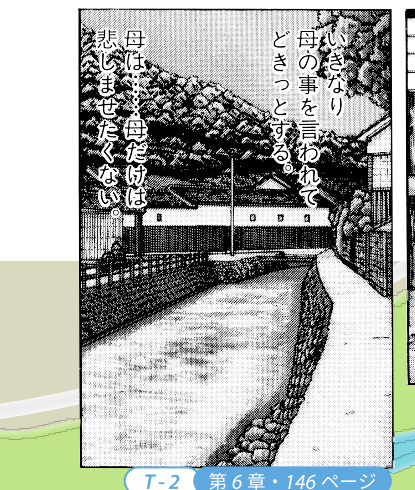
T-6 第9章・215ページ



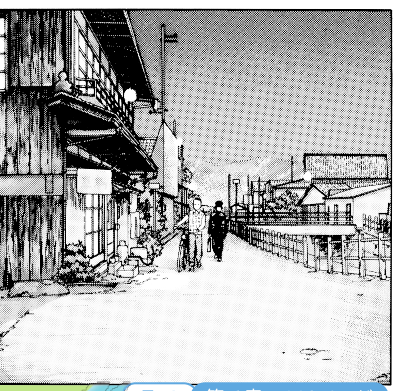
T-5 第9章・222ページ



T-3 口絵イラスト



T-2 第6章・146ページ



T-1 第6章・146ページ



M-2 第3章・63ページ



M-3 第1章・32ページ



遙かな町へ

倉吉まち歩きマップ

倉吉 IC・R9



313

小鴨川

313

313

関金温泉

明倫地区

商都として栄えた倉吉のかつてのにぎわいがまち並みに残る八橋往来。冒頭の母の菩提寺や主人公の家があり、作品の多くの舞台がこの界隈に集中する。



M-5 第2章・43ページ

主人公の実家「中原洋服店」と父。洋服店こそ架空だが、実際の風景を元に描かれている

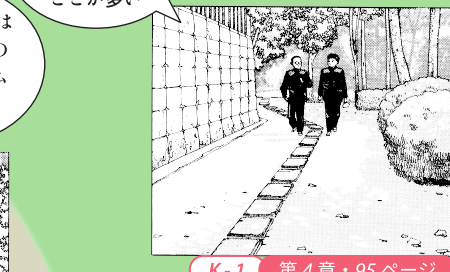
クラック状のカーブが特徴のまち並み



M-4 第1章・21ページ

伯耆国の中心地倉吉と現在の琴浦町八橋を結ぶ街道「八橋往来」

主人公の通う中学校が麓に立つ。放課後のシーンはここが多い



K-1 第4章・95ページ

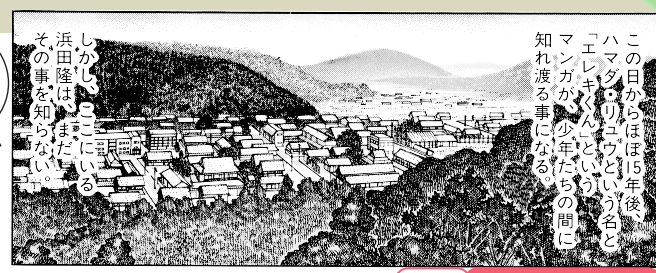
18歳の主人公はここで中学生の自分へとタイムスリップする



M-6 第1章・22ページ

打吹公園

さくらの名所、森林浴の森、日本の都市公園など数々の百選に選ばれた打吹山・打吹公園。赤瓦のまち並みを見下ろすここを主人公はたびたび訪れる。



K-2 第4章・95ページ

打吹山から望む倉吉のまち並み

玉川沿い

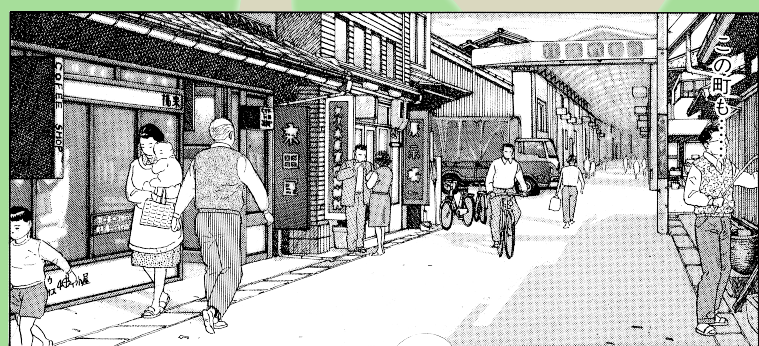
まちの中心を流れる玉川に沿って白壁土蔵が建ち並ぶ。作品には何度も、主人公が一人で、友人と、ここを歩く姿が描かれている。



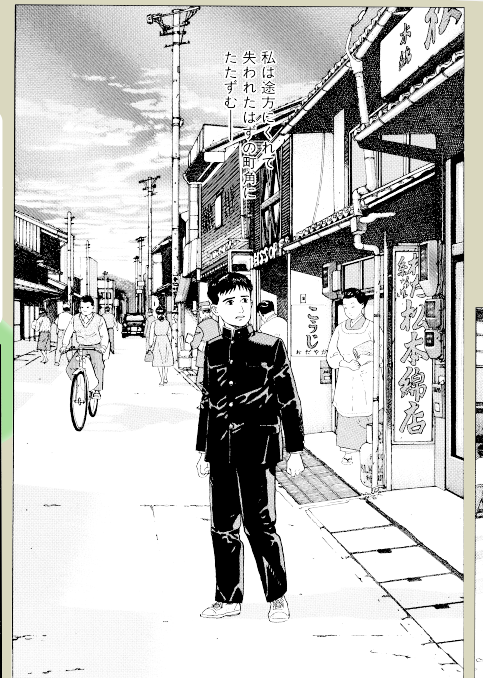
T-4 第3章・75ページ

魚町界隈

酒蔵、醤油蔵など商家や、倉吉を代表する町家の風景が数多く残る魚町から東仲町、西仲町界隈。作品そのままの風景が今もたくさん残る。



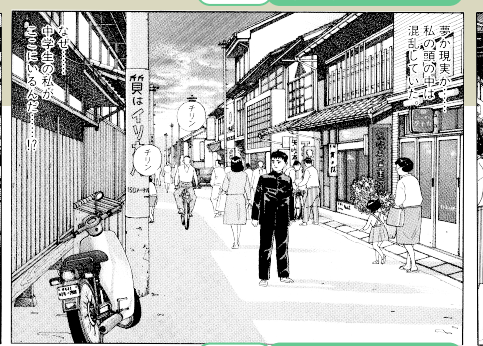
U-5 第2章・41ページ



U-2 第1章・38ページ



U-1 第2章・40ページ



U-4 第2章・40ページ



U-3 第2章・41ページ

玉川と白壁土蔵と打吹山と。時間がゆっくりと流れる

京都駅を立ち、東京へと向かった主人公が乗り間違えたのは、実在する特急列車「スーパーはくと」だった

地図外 第61章・393ページ

三朝温泉・R179

「これが夢だとすると、あまりにも生々しい風景の緻密さと奥行きが作品に深みを与える